

事務事業名		子ども医療費助成事業				<input type="checkbox"/> 事後(中間)評価対象事業			
総合計画	政策名	安全安心な暮らしを支えるまちづくり				所属課	保健福祉課	担当	子育て支援担当
	施策名	子育て支援の充実				課長名	和氣 剛	担当者名	斎藤 久美子
予算科目		会計	款	項	目	事業	事業コード名	関係法令・条例等	子ども医療費助成に関する条例・規則
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 昭和47 年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定 ( 年度～ 年度)			
事務事業の概要 (事務事業の内容を記載)		<p>1 事務事業概要 子ども(出生日から18歳に達する日以降の最初の3月31日まで)に係る医療保険適用のすべての疾病及び療養給付費及び療養費を助成する事業である。給付方式については、未就学児は、県内医療機関のみ現物給付方式、未就学児の県外医療機関受診・未就学児以外は、償還払方式となっているが、保護者の助成申請などの手続きの省略化及び充実した子育て世帯への経済的支援のためにも県内医療機関での受診については、子ども医療助成対象者は、平成28年度より全て現物給付方式を導入する。 医療機関等での窓口払いがなくなることで、医療費の膨張に繋がらないように予防担当と子どもの健康対策についても更に力を入れて取組み、医療費の適正化を図る。</p> <p>2 概算事業費(※ランニングコストが掛かる事業については、概算で算定し記入すること) 年間子ども医療費助成金額 : 31, 500, 000 円 現物給付審査手数料 : 600, 000 円 県医療費補助金(収入) : 4, 000, 000 円(現在の補助率1/2から1/4になる) システム改修:3,300,000円</p>							

(1) 事務事業の目的と指標		(4) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 活動の計画(活動の量・大きさ・規模等)	医療費の助成	名称	単位
② 対象(事業は誰・何を対象にしているのかを記載)	① 子どもの保護者 ② 子ども	ア 助成件数	件
③ 目標(この事業によって、対象をどうしたいのか記載)	子どもの医療費を助成することにより、疾病の早期発見と早期治療を促進し、子どもの保健の向上と福祉の増進を図る。また、医療費負担が軽減されることによって、子育て世帯の経済的支援に繋がる。	イ 登録人数	人
		ア 助成率	
		イ	

(2) 指標・総事業費の推移		単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度 総合計画 最終年度
活動指標	ア	目標値 件	12,700	12,800	12,900	12,900	12,900	12,900
	イ	実績値 件						
対象指標	ア	目標値 人	1,600	1,600	1,580	1,570	1,570	1,570
	イ	実績値 人						
成果指標	ア	目標値 0	100	100	100	100	100	100
	イ	実績値 0						

計画		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
投入量	事業費	国庫支出金 千円					
	財源内訳	県支出金 千円	9,600	4,000	4,200	4,200	4,200
		地方債 千円					
		その他 千円					
		一般財源 千円	25,200	27,500	27,300	27,300	27,300
事業費計 (A)		千円	34,800	31,500	31,500	31,500	31,500

実績		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
投入量	事業費	国庫支出金 千円					
	財源内訳	県支出金 千円					
		地方債 千円					
		その他 千円					
		一般財源 千円					
事業費計 (A)		千円	0	0	0	0	0

評価項目	説明	事前評価結果	実施後の状況	事後評価結果
目的妥当性評価 ① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を投入して、達成するものですか？	県と各市町で進めている事業であり、今の児童福祉には必要な事業である。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
有効性評価 ② 着手・実施の必要性 この事務事業をなぜ着手・実施しなければならないのか？先延ばしにできない理由は何か？	近年、助成の拡充が行われているが、保護者からは、償還払ではなく、手続きなしでの、助成対象者全て現物給付の導入の要望が強いため。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
効率性評価 ③ 総事業費の算定根拠 算定にあたってコスト削減策を考えたか？将来のコスト増要因に対して対策が考えられているか？	現物給付となれば、助成事務の入力担当の事務負担が明らかに軽減となる。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
公平性評価 ④ 受益と負担との関係 事業の内容は受益と負担との公平性が考慮されているか？	塩谷町在住の全てのこどもが対象となっているために公平性は保たれていると判断できる。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり		<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり

### 3 事前評価結果

事前評価日： 平成 27 年 10 月 30 日

(1) 事前評価者として判断した今後の事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 1次案のまま採択 <input type="checkbox"/> 下記条件で採択 <input type="checkbox"/> 不採択 <input type="checkbox"/> 差し戻し	
(2) 採択条件	(3) 指示事項(事務事業に関する指示、事後(中間)評価日程等) ・町の負担が増えるが、町民の利便性が高まり子育て環境の向上につながる ・助成にかかる事務処理が省略されるため、事務の合理化につながる

### 4 成果検証

事後(中間)評価日： 平成 年 月 日

事務事業実施後の概要 (実施しての効果、受益者等の反応、問題点、課題等を記載)	
--	--

(1) 評価結果(今後の方向性) <input type="checkbox"/> 優(成果大) <input type="checkbox"/> 良(良好) <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可(成果なし・中止・計画変更必要)	
(2) 総評	(3) 指示事項  <input type="checkbox"/> 再評価対象事業